

暖冬に伴う麦類の栽培管理技術対策について

平成28年1月6日
埼玉県農林部

平成28年産麦類は、11月下旬にかけて数日おきに降雨があったことから、全般的に平年に比べは種作業が遅れました。その後天候が回復しましたが、11月・12月の月平均気温はそれぞれ平年より2℃と著しく高く推移しました。

このため、11月中旬までには種した麦類は、葉位の進展、茎数も著しく多く、過繁茂気味に生育しています。

暖冬により生育が促進されると春先以降、倒伏等により収量品質の低下が心配されます。

については、暖冬対策として以下の技術対策資料を作成したので、参考にしてください。

1 踏圧（麦踏み）

徒長防止（倒伏防止）、耐寒性の向上をねらい茎立期前までに2～3週間の間隔を空けた踏圧を実施しましょう。

1 1月下旬は種の小麦も3枚目の葉が出ており麦踏みが可能です。

2 雑草防除

雑草の発生が多くなりやすいので良くほ場を観察し、雑草が発生し始めたなら種類と葉令を確認し、適期に除草剤処理を実施してください。

3 追肥

- ・生育ステージや生育量に応じた適正な追肥を実施します。
- ・基肥一発型施肥についても、生育状態によって追肥を判断してください。

4 排水対策

暖冬時は雪も含めて降水量が多い傾向なので、踏圧で排水路が埋もれていないか、外部の排水路としっかり連結されているか等、明きよの補修、管理をしっかりと実施しましょう。